令和７年度　後志地域づくり連携会議（岩宇・南後志ブロック）議事概要

日時：令和７年８月２０日（水）１０：００～１２：００
場所：神恵内村漁村センター　大集会室

出席者（構成員等）
　島牧村長、寿都町長、黒松内町長、共和町長、岩内町長、泊村長、神恵内村長、きょうわ農業協同組合長、南しりべし森林組合長、岩内商工会議所会頭、岩内観光協会副会長、後志総合振興局長、小樽開発建設部長

議事
（１）道央広域連携地域政策展開方針の進捗について
（２）地域づくり推進ビジョンの進捗について
（３）意見交換
（４）その他（情報提供）

意見交換　－地域が抱える課題について－

【島牧村】
・今年度は、国道維持が地元業者でなくなるという事態になったが、小樽開建の方で寿都町の業者の力を借りて維持がしっかりできることになり、非常にありがたい対応をしていただけた。
また、冬に向かって除雪等発生するので、 しっかり対応していただきたい。
・島牧は土砂災害警戒区域が全域に広がっている。最近、国有地から土砂というか岩が落ちてきて、民地に落ち、家にぶつかるかもしれないという情報があり、出所が国有地だからどうにかしてほしいというのがあったが、家が岩にぶつかって崩れてしまっても困るので役場で一時的に対応した。今後、大雨で降水量が増えてくるとそういう災害が増えるので、国有地また道有林、そういうところから落石があったときには、対策や検討をしていただきたい。
・人材不足というのは間違いなく島牧村も徐々に進んでいる状況にある。医療機関も維持していくのは難しいところ。今、救急搬送に関しては、寿都町にある寿都診療所に協力いただいて、救急搬送している状況。過去に、北海道に大きな病院と連携する時の補助金があるなら使いたいといったら、枠はあるが予算確保していないので予算執行できないと伺った。制度的にある中で予算確保をしていないと、いざ、助けてほしい時に非常に大変な思いをする。予算を確保して、北海道、国で準備しておいていただきたい。

【寿都町】
・基幹産業の漁業が温暖化で大変な状況。水揚げが毎年、億単位で減少しているという状況。
・人材確保が非常に我々の町も厳しくなっている。情報提供も含め、もっと緊密な連携が図れるとありがたい。当然、人材確保するにはお金がかかる話なので、お金の関係については国の制度

を活用しながらやっていきたい。
・交通の関係では、ニセコバスは本当に空気を運んでいるような状況。ニセコバスが撤退というのは時間の問題という状況にある。どう持って行くと経費が安く済むのかも含めて検討したい。
・今、岩宇・南後志で洋上風力の関係を進めているが、新たな稼ぐ力になると思うので、新たな取組として洋上風車にも期待をしている。

【黒松内町】
・防災の話では、7 月 30 日からカムチャッカ半島の地震で太平洋側に津波警報が出た。海に面してないのでノーマークだったが、実は長万部町が避難指示を出し、自主的に黒松内町の方に避難される方が多数いた。後回しになったが、一応自治体間の要請を得ているということにしたが、我々も非常に想定外で混乱した。
・例えば、福祉避難所。町所有であればすぐにお願いできるが、法人所有のものであれば、町内の避難民だけを対象としているため、町外からの避難民をどうするみたいなことがあった。
・長万部町内の商店が全部閉まってしまうと、日常生活品も黒松内町の商店に買いに来る。コンビニなどもほとんど飲料水、食料品は全部棚が空になってしまうこともあった。
・我々も事前に近隣町村と災害協定をしっかり結んでおかなければならないと思っている。これから日本海側も決して、津波の可能性がゼロではない。いろんなことを想定しながらやっていきたいと思っているが、北海道の防災計画の中では、当事者間、当該自治体ごとに協議を任せる記述になっているかと。津波のような広範囲の災害であれば、もっと複数の自治体との協力が必要になる場合が出てくると思う。もしかすると網羅されているかもしれないが、もっと大規模災害を想定した、広域避難というようなところを、しっかりと北海道がリーダーシップをとって、基本的な指針もまとめていただければと思う。
・避難所も町民だけの避難を想定しているため、町外からくるとなかなかスペースや規模が足りないし、テントや配慮が必要な人たちの避難などについても十分ではない。町外からの人にどこまで我々が責任を持ってやるか、みたいなところもある。

【共和町】
・高規格道路の関係で、できるだけ早くということで、私どももしっかり要請したいと思っているが、開発さんにもお力添えいただきたい。
・泊原子力関係は、いろんな災害が想定される。そういった中、おかげさまで泊共和道路を開通させていただいた。やはり複数路線というのが大切で、これが岩宇の悩みである。
・そういった中、本町は、地域公共交通のしおかぜライン。民間のバス会社は簡単に廃止というが、住民の足が確保できない中で、４か町村が足並みを揃えながら足の確保ができた。財政はかなり負担になってきている。国から支援していただいているが、ソフト面で北海道の支援策がない。これから北海道どこでもありうることなので、町村、自治体単独でもいろんなことをやるが、もうこれからは広域でやらなくてはならない。やっぱり北海道にも参画してもらうということが大事だと思っている。本庁の担当者には、今、制度的にはないという話をされたので、制度は作るものだよと話をしてきたけれど、ぜひ、広域でも支援策をお願いしたいと思っている。

・本町は国際キャンパス構想というのがあり、地域にインターナショナルスクールをということで、何十年もかかる構想がある。ラピダスでは海外から技術者が来るときに北海道にレベルの高い教育がないから子供を連れて来られないということを聞いている。そういった中で、一緒になって、この国際キャンパス構想をやっていただきたいと思っている。何かと言うと、インフラ整備。そこに至るまでの道路、水、電気等々がやはり必要になってくるので。その辺は町としても課題があるが、北海道、国にも一緒になって考えていただければありがたい。

【岩内町】
・公共交通の確保ということで、岩内倶知安（小沢）線を減便したいとバス事業者からつい最近話があったところ。しおかぜラインの時もそうだったが、最初は、継続したいので、なんとか減便をして、収益を確保しながら続けたいという話だったのが、一年、二年経つと、利用者が少ないのでやめていきたいという話に変わっていく。岩内倶知安町線でもあれだけ高校生が通学で使うのに、また同じようにはじまった。制度設計として、地元の負担がある程度少なくなることを新たに踏み込んで考えていただかないとまずいというのと、自動運転などなるべく経費がかからなくてもできるようなことを積極的に国と道が取り組んで、私たちに情報提供していただくことが大事かと思うので、お願いしたい。
・地域医療。協会病院、これまでは、小児・救急医療に対して赤字をなんとか解消しながら、４町村で、その部分について続けていただきたいということで一定程度補助金を出していたが、今回初めて、医療機関全体として億単位の赤字。地域として、機関的な役割を果たしているし、支援してくれないかという話が初めて来た。これはやっぱり、地域の病院にとっては今の国の制度では非常に厳しい。黒字化するなんて夢のまた夢みたいなところが多い。こういう協会病院が、原子力発電所に対して医療協力機関となっている。何かあったらすぐに運び込まれる医療機関という性質を考えると、こういう特異性を持ったところに対しては、特に国と道で維持するための策というのが必要であると痛感しており、今後においても、４か町村で国と道にお願いに行こうと思っている。地域の医療に対して経営的に赤字だということをまず構造転換していかないと、この問題は消えていかないと思うので、その辺をお願いしたい。
・小樽開建管内については、予算についても順調についており、素晴らしいことだと思っているが、一方、一般国道と道道を見ると、一般の補修に対する予算の関係上、走行しても非常に荒れているところが実際問題ある。やはり安全安心を示すという上でも、予算の確保は大事かと思っており、北海道も国も、私たちももちろん獲得のために一緒に頑張りたいと思うが、獲得するように頑張っていただければと思う。
・稼ぐ力に関して、古くなった道の駅を改修しようと思っている。これについては、制度や補助をうまく活用しながらやっていく予定。そうした視点に立った時に、地域のために存在している国のセクション、それから北海道のセクション、ここの人員を減らしていくということはあってはならない。要は細かいサポートが今こそ必要なので、開発建設部や総合振興局の人員を減らすことがないように、人員の確保、人材の確保はいろんな方面で言われているが、国、道にもしっかりと取り組んでいただければと思う。

【泊村】
・７月 30 日に泊発電所三号機が原子力規制委員会において、原子炉設置変更許可の決定をされた。いよいよこれから再稼働に向けて、様々な手続きを経て、議論されると思うが、再稼働にあたっては、安全面、防災面の観点から、信頼性の確保が何より重要で、そのことによって、住民の安全安心が図られる。
・避難道路の関係では、泊共和線が開通し、大変感謝している。その上で、泊共和線は携帯電話が通じないということで、来年あたりから調査や工事が入ると思うが、北海道でいろいろ動いてくれているのは聞いている。いつ災害があるか分からないので、早期に携帯電話が繋がるようにしていただきたい。
・泊共和線には街灯が少なく、夜の通行が少し暗いという話も聞いており、災害は何時にあるかわからないので、そういう部分も含めて街灯の設置をお願いしたい。
・泊共和線と共和北 IC の接続を早期にやっていただきたい。泊共和線と共和北 IC を接続することよって、選択肢も増え、時間も短縮されると考えている。併せて、泊共和線と共和北 IC を接続する際に、国道５号、そちらの交差点改良を含めて交通安全対策を図っていただきたい。
・新たな避難道路について。避難するときに住民の安全の確保のために、複数の避難道が必要だと考えており、そこをしっかり検討していただいて、十分に安心の部分を提供していかなければならないと思っている。
・防災の関係では、岩内協会病院は北海道原子力防災計画の協力医療機関に指定されている。万が一、事故があった時に初期被爆医療の最前線は岩内協会病院になる。被爆された人が運ばれたときにその判定をする医師が必要だが、その医師が足りないということで、毎年岩宇４町村でいろいろ要望活動をしているが、まだ最低限の人数しか確保されていない。北海道の原子力防災計画を北海道がしっかり認識して、主体的に北海道が医師確保をしていただければと思う。

【神恵内村】
・農林水産業だと、地球温暖化が地域課題。我々と一緒に取り組んでいただければ。
・岩内協会病院の話が出ていたが、原子力発電所の関係で運ばれてくるので、北海道として、きちんと体制を取ってもらいたい。医師の確保、看護師の確保が大事。
・熊と鹿の問題、毎日テレビで報道されているが、ようやく、市街地でも撃ってもいい事になった。ぜひ、実情にあった取り組みができるように地域の意見を聞いてお願いしたい。
・国を道もそうだと思うが、地方自治体は人材不足にあえいでいる。受験して受かって採用しても、結構病を抱えている人も多く、結局すぐやめる。どこも同じだとは思うが、できれば国や北海道にぜひ力を貸していただきたいと思っている。

【きょうわ農業協同組合】
・実際に農業をしている人間にすれば、持続可能（が課題）ではなく、産業として成り立たなければ次の世代に渡せない。これが今本当に大きな課題になっている。
・私たちもいろいろ国にお願いするが、「北海道は広いのだからもっとコストを下げることができる」と言われる。確かにそうだが、コストを下げるために基盤整備したり、IT などを導入したり

する必要がある。でも導入するときのお金はどうする。すでに基盤整備が終わって大区画になっていたり、いろいろ導入されているところは良いが、最悪なのがあまり言いたくないが酪農。我々の耕種（農業）に比べたら、とんでもない額の投資をする。その支払いで酪農をやっていけない。大きな問題になっている。 今、国のほうでも農業予算を大幅にアップしてくれているが、農業機械を購入する、そういう設備投資も、そのスピードも額も上がっているという、そういった部分について、振興局や開発局では対応できないかもしれないが、道と国の方にも強く求めていただきたい。
・きょうわ農協も、漁業もそうだが、地域を維持し、人口を確保するためには、一次産業の人がいなくなったら町村が無くなると思っている。農協としてもいろいろ頑張っているが、できることは限られている。あと 50 年経ったら農業者の人口は今の２割になるといういろんな統計も出ている中で、そういった状況になった時に（農業を）誰が担うのか、本当に大変な問題になると思っている。
・この温暖化に対応するために品種改良するのも、一年、二年でできるものではない。昨日も米に関する会議があっていろいろ揉めた。儲かる産業じゃなかったら農業ができない。
・我々にとっても今、クマ、アライグマ、シカなどの鳥獣被害が問題。いろいろ町から補助いただきながら電気柵を買ったりしている。クマは電牧柵で対応できるが、一番厄介なのはシカ。電気柵を高く設置すればその下をくぐる、たくさん設置してもその高さを飛び越えてくる。シカによる被害がいちばん多い。
・クマによる被害はニュースになっても、シカによる被害はあまりニュースならないが、こういう実態があることを知っていただければと思う。

【南しりべし森林組合】
・資料を持ってきた。来週 28 日に黒松内町と島牧村を訪れお願いしてくる要望書。
・一つは、森林環境譲与税を積み立てしているところに、積極的に使ってくださいというもの。譲与税は、全国でも３割くらいしか使われていない。譲与税自体が少なく、島牧村でも年度で 30 万円ぐらい譲与されているが、５年積み立てても 150 万円にしかならず、その小さい金額の仕事を作るのは結構大変。それでも使ってくださいということ。
・もう一つは、公共工事に木材を使ってくださいということ。工事は鉄筋コンクリートの建物の場合が多いが、内装材として例えば壁の一部に木材を使うなどをお願いするという趣旨。コロナ禍前は木材の需要と供給がちょうどいいバランスだったのが、コロナ禍が明けてバランスが崩れたので、木材を使ってくださいということ。

【岩内商工会議所】
・岩内商工会議所の会員においても厳しい状況だが、泊発電所の工事の関係者が岩内町に訪れており、特に飲食店関係について事業拡大又は新規参入で補助金の申請が多くなっている。当商工会議所ではその業務を行っているが、申請して交付されるまでの時間をできれば短くしてほしい。また、申請業務の簡素化について、ご検討いただければと思う。
・高規格道路について順調に整備を進めているとのことですが、難しいかもしれないがなるべく

早期に開通させていただきたい。

【岩内観光協会】
・正直、観光協会と岩内町では観光に大変苦しんでいる。目玉になるものもそうあるわけではなく、岩内は漁業を中心にやってきたので、漁業者が少なくなったことで、海を売り物にする観光というのが少なくなってきた。
・昨年町長の肝いりで、共和町と相談して岩内マリンビーチという海水浴場を何十年ぶりに開設した。今年は特に暑い日が続いており、結構な人数が海水浴場に来ている。それから、北海道ビーチバレーボール連盟が、ビーチバレーができるコンディションの海水浴場がなかなかない中、岩内町がすごくいいということで、本年もビーチバレーボールの大会をされる。北海道にも全日本クラスの選手がきて、その合宿も含め、毎年やっていこうという話がある。
・隣の倶知安町、ニセコ町については、冬季以外もインバウンドや、日本人の観光客が集まっているが、岩内町まで寄ってもらう手段が少ないというのも悩み。岩内には東京以北最大の大仏があるお寺など、寺社仏閣も多いので見ていただきたいという観光 PR を一生懸命行っているが、なかなか立ち寄っていただけない。
・原発関係や新幹線の工事関係者で岩内町の宿泊施設が現状一杯になっており、観光客が宿泊できない状態。
・共和町に再来年に道の駅が完成予定で、岩内町でもこれからの建設にむけて検討しているところ。高規格道路、共和町の道の駅、岩内町を含めた岩宇の町村を上手に回っていける観光をメインにしようと思っているので、御協力をお願いする。

【きょうわ農業協同組合】
・(寒地土木の資料を見て) 吹雪時の視界についてあったが、実は去年か一昨年ぐらいに共和町の防雪柵、非常に立派な防雪柵をつけていただいたが、我々の感覚からすると防雪策は下の隙間から風で飛ばすという意識だが、今回設置されたのは全面を塞いでいる。下のほうからあがってきた雪が、防雪柵があるために、この前も事故があったところだが、左右からの車が全く見えない。我々の乗用車なら少し出ればいいが、冬除雪するドライバー側だと運転席から確認できるまで前に出なきゃならない。地域の人たちも非常に困っているのが実態。できるかできないかわかりませんが、せめて交差点の 100m上、下の方だけでも視界が見えるような形は取れないものかどうか。あの防雪柵は雪をすべて止めてしまうので、その下側にある田んぼや道路に雪の溜まり方が、今までと違うような状況。冬の間は万が一普通のスピードで走ったらとんでもない事故になる。ぜひ可能であれば検討していただきたい。

【神恵内村】
・小樽開発建設部さんにお願いしたい。仁木から共和まで稲穂峠の部分、少し早めにできるのであれば、交通安全の問題もあり、あそこの区域は悪いので、できた部分だけでもできれば先に共和から稲穂を通してもらって供用してもらえたらと思っている。

【寿都町】
・先ほど森林組合さんの方から譲与税の話が出たが、あの時基金をもとにお金をバラまいて、そのバラまいた金は我々の町がありがたく活用させてもらったが、今の森林環境税のあり方をもう１回見直しする必要があるんじゃないかと私は思っている。当初は森林に 100%使う話だったはずが今、東京都とかは全く木のないところに使っている。それを使う側の立場で考えたら、最初の思いとは違う金の使い方をされている。
・今、ほとんどの熊の生息っていうのは国有林、保有林だと思う。そこに、熊が増えているので餌が足りない。やはり、餌になる実のある木を植えていくだとか。木材をつくるということも大事だけど、熊の身になった時にやっぱり食べ物を与えないとやっぱり出てくる。また、駆除は道が中心になって、各自治体とエリアでタッグを組んで一斉にやっぱりやらないと、どうしても各自治体に責任が重すぎるような気がしますので、やはり作戦を練って、熊の身になった政策と命を守る政策を合わせてやるしかないというふうに思っている。
・あと、国土強靭化。国交省の国土強靭化は当たり前のように予算づけしてやるというのはありがたいが、原発の強靭化についてはなんで使用者負担になるのか私は不思議でしょうがない。これは国会でも全く議論にならない。 確かに、その民間事業者が電力を賄うというのはわかるが、特に原発については、国の政策でやっている。今、泊では相当の金が強靭化のために使われて、その負担が全部道民ですよっていうのは、ちょっと違うんじゃないかと。これをどこかで議論してもらわないと。これはなかなか再稼働したって電気代が安くなんてならない。やっぱり電気代は国が持つものは持って、電気代を安くして、やはり農業だろうが水産だろうが各企業が税金でお返しする。こういう循環をしない限り、北海道はいつまで経ったってなかなか儲かる産業にはならないんじゃないかと思う。私も経産省にこの話をさせてもらったが、全く議論になってないはず。こういうのも含めて、声を上げていく必要があると思っている。

【南しりべし森林組合】
・今朝のテレビに、島牧村が出ていた。熊の関係で電気防止柵を設置するのに 15,6 キロ設置しており、村の財政でやっているとテレビで言っていた。設置して外して、春になるとまたやる。これがだいたい 2,000 万円ずつかかると言っていたので、それが全部村の負担になる。やっぱり北海道熊対策として補助金を出すだとかそういったことも必要になってくると思う。島牧ばかりじゃなくて蘭越も出ている。昨年の春に 360 キロの熊が 1 頭罠に入った。箱わなに鹿肉を入れたら入った。そういうことやると動物を殺すなとか。人間の命と熊の命とどちらが大切なのかということも多少議論することも必要かと。熊の生息域に今、人間が入っていっている。そのためには熊が食べる木を植えるとか、道の施策として間伐、除伐だけじゃなく、そういったこともプラスアルファ必要じゃないか。